

リニモ沿線地域づくり重点プラン

2021-2025（仮称）

＜素案＞

令和 2 年 1 0 月現在

目 次

| | |
|--|-----------|
| 第1章 策定の趣旨 | 1 |
| 1 策定の背景と目的..... | 1 |
| 2 取組年次 | 1 |
| 3 対象地域 | 1 |
| 第2章 地域づくりの現況と今後の方向 | 2 |
| 1 リニモ沿線地域の特性..... | 2 |
| 2 これまでの取組状況 | 3 |
| 3 沿線地域をとりまく状況 | 7 |
| 4 重点プランの基本的な視点..... | 12 |
| 第3章 重点戦略と主要施策 | 13 |
| 1 ジブリパークを核とした地域の魅力向上による「何度も訪れたくなる沿線」 ... | 14 |
| 重点戦略1 魅力向上によるにぎわいの創出、交流の促進..... | 14 |
| 重点戦略2 イノベーションの促進、次世代産業の育成 | 28 |
| 2 充実した都市機能と自然環境が調和した「住み続けたくなる沿線」 | 32 |
| 重点戦略3 持続可能な集約型まちづくりと自然環境との共生 | 32 |
| 重点戦略4 地域づくり活動の活性化..... | 45 |
| 3 効率的で快適な移動を可能にする「誰もが使いやすい交通の実現」 | 50 |
| 重点戦略5 効率的で利便性の高い交通体系の構築 | 50 |
| 4 主要施策とSDGsの17の目標..... | 55 |
| 参考資料 | 56 |
| 1 策定体制 | 56 |
| 2 策定過程 | 56 |

第1章 策定の趣旨

1 策定の背景と目的

リニモ沿線地域では、2009年（平成21年）3月に愛知県及び沿線4市（瀬戸市、豊田市、日進市、長久手市）において策定した「リニモ沿線地域づくり構想」（以下「構想」という。）により2025年（令和7年）を展望したリニモ沿線地域の将来像を示し、その後の2016年（平成28年）3月には構想で示した地域づくりの方向性及びまちづくりの基本方針の実現に向けた基本戦略と主要施策を示した「リニモ沿線地域づくり重点プラン2016-2020」（以下「前プラン」という。）を策定し、地域づくりに取り組んできた。

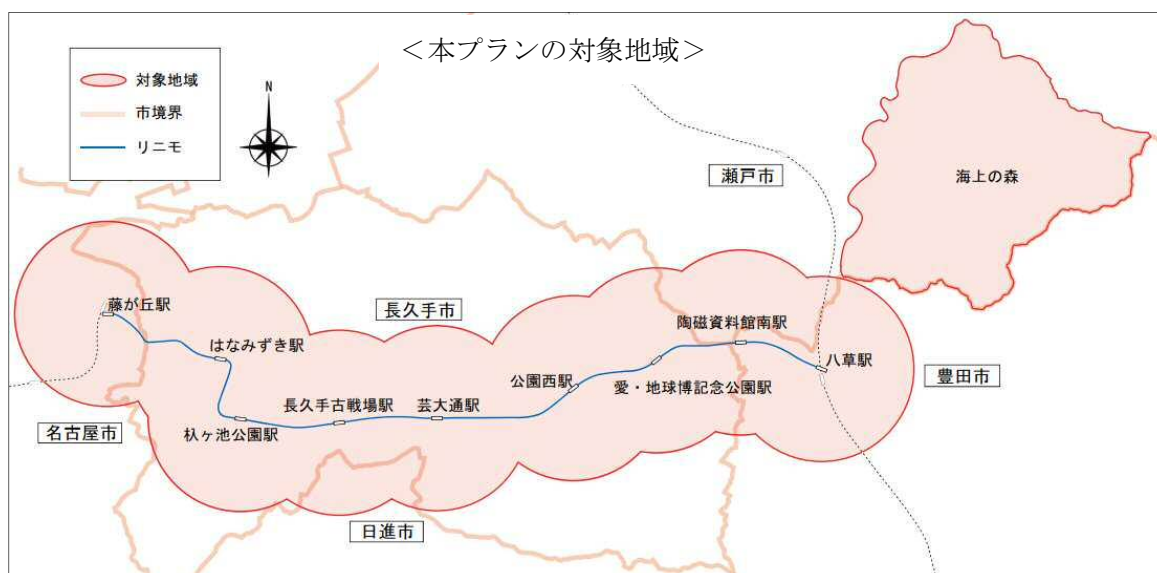
これまでの取組により構想で示した将来像が着実にかたちになりつつあるが、本年度で前プランが目標年次を迎えることに加え、2022年（令和4年）秋のジブリパークの開業や持続可能な開発目標（SDGs）の理念の浸透等をはじめとした地域の状況や社会情勢の変化を踏まえ、2025年（令和7年）を取組年次とする「リニモ沿線地域づくり重点プラン2021-2025」を策定する。

2 取組年次

本プランは2021年（令和3年）から2025年（令和7年）を取組年次とする。

3 対象地域

本プランの対象地域は、2022年（令和4年）秋のジブリパークの開業に伴い、パーク開業のインパクトを西のアクセス結節点となる藤が丘駅を含むリニモ沿線地域に広く行き渡らせるため、沿線地域全体の魅力向上を図ることが極めて重要であることから、本プランの策定主体に名古屋市を加え、前プランにおける対象地域を拡充し、東部丘陵線（リニモ）9駅の周辺（概ね1km圏）及び「海上の森」を主な対象地域とする。



第2章 地域づくりの現況と今後の方向

1 リニモ沿線地域の特性

(1) 充実した広域的な交通ネットワーク ～“交通条件”の優位性～

愛・地球博（2005年（平成17年））の開催を契機として、鉄軌道ではリニモの開業や愛知環状鉄道の一部複線化が行われ、道路では名古屋瀬戸道路や東海環状自動車道が整備されるなど、広域的な交通ネットワークの形成・充実が進んでおり、交通利便性の高い地域である。

(2) 大都市近郊の豊かな自然環境 ～“自然環境”の優位性～

名古屋東部丘陵に位置し、名古屋市に近接した利便性の高い場所であるにもかかわらず、優良な田園地帯が広がり、さらに、その東部には海上の森をはじめ多くの森林が残る、豊かな自然環境に恵まれた地域である。

(3) 愛・地球博を継承する施設群と活動 ～“愛・地球博開催地”の優位性～

沿線には、愛・地球博記念公園（モリコロパーク）、あいち海上の森センター、瀬戸万博記念公園（愛・パーク）、愛・地球博記念公園内の「地球市民交流センター」などがあり、万博の理念・成果を発信する拠点として、本県の地域づくりにおいて重要な位置を占めている。また、環境学習活動や森林整備など、愛・地球博によって育まれた多くの取組や市民交流活動が活発に行われている。

(4) 大学や研究機関の高密度な集積 ～“学術研究機能集積”の優位性～

沿線には周辺も含め9つの大学が集積している。また、知の拠点あいち、愛知県農業総合試験場、豊田中央研究所等の研究機関が数多く立地し、様々な研究開発や実証実験が行われており、今後の愛知の飛躍に向けて重要な役割を担っている地域である。

(5) 名古屋市東部から延びる文化・居住エリア ～“居住環境”の優位性～

名古屋圏の東の外縁に位置し、名古屋市東部から連なる良好な市街地が形成されている。また、愛・地球博記念公園、愛知県陶磁美術館、トヨタ博物館、愛知県口論義運動公園、長久手古戦場公園、あいち海上の森センターなど多くの文化・レクリエーション施設が立地し、さらに近年においてはイオンモール長久手やIKEA長久手といった大型商業施設が建設される等非常に優れた居住環境を有した地域である。

2 これまでの取組状況

(1) 計画的な市街地整備

リニモ沿線地域では、リニモ駅を中心とした概ね1km圏内で、自然環境の保全に最大限配慮しながら、土地区画整理事業や地区計画制度による計画的な市街地整備に取り組んできており、長久手古戦場駅周辺の「長久手中央土地区画整理事業」、公園西駅周辺の「公園西駅周辺土地区画整理事業」においては、大規模商業施設の立地や宅地、道路、駅前広場等の整備が行われ、市街地整備が着実に進展してきたところである。

このほか、長久手古戦場駅と芸大通駅に近接し、日進市の「北のエントランス」として位置づけられる「(仮称)日進北部土地区画整理事業」や、八草駅周辺における市街地整備に向けた取組が進められている。

<長久手中央土地区画整理事業>



<公園西駅周辺土地区画整理事業>



(2) 沿線施設の整備

愛・地球博記念公園では2017年（平成29年）6月に愛知県と株式会社スタジオジブリが敷地内に「ジブリパーク」を建設することで合意し、2022年（令和4年）秋に3エリア、その概ね1年後に2エリアの開業を目指した取組が進められているほか、2019年（令和元年）には老朽化したアイススケート場の更新工事が行われた。

また、知の拠点あいちでは、2016年（平成28年）に「新エネルギー実証研究エリア」が整備され、すでに供用を開始していた「あいち産業科学技術総合センター」及び「あいちシンクロトロン光センター」とともに最先端の研究開発環境を備えた拠点として既存産業の高度化や次世代産業の創出を図るために産学行政が連携した共同研究開発プロジェクトに取り組んでいる。

さらには、沿線の市街地整備にあわせて、2016年（平成28年）には長久手古戦場駅に近接してイオンモール長久手、2017年（平成29年）には公園西駅に近接してI K E A長久手といった大型商業施設が開業している。

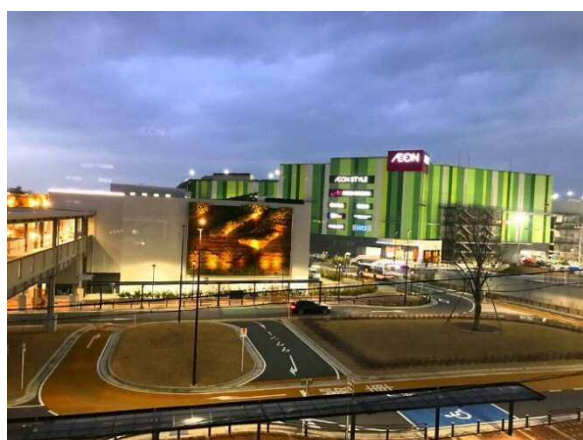
<沿線施設の現況>



ジブリパークイメージ図



あいちシンクロトロン光センター



イオンモール長久手



I K E A長久手

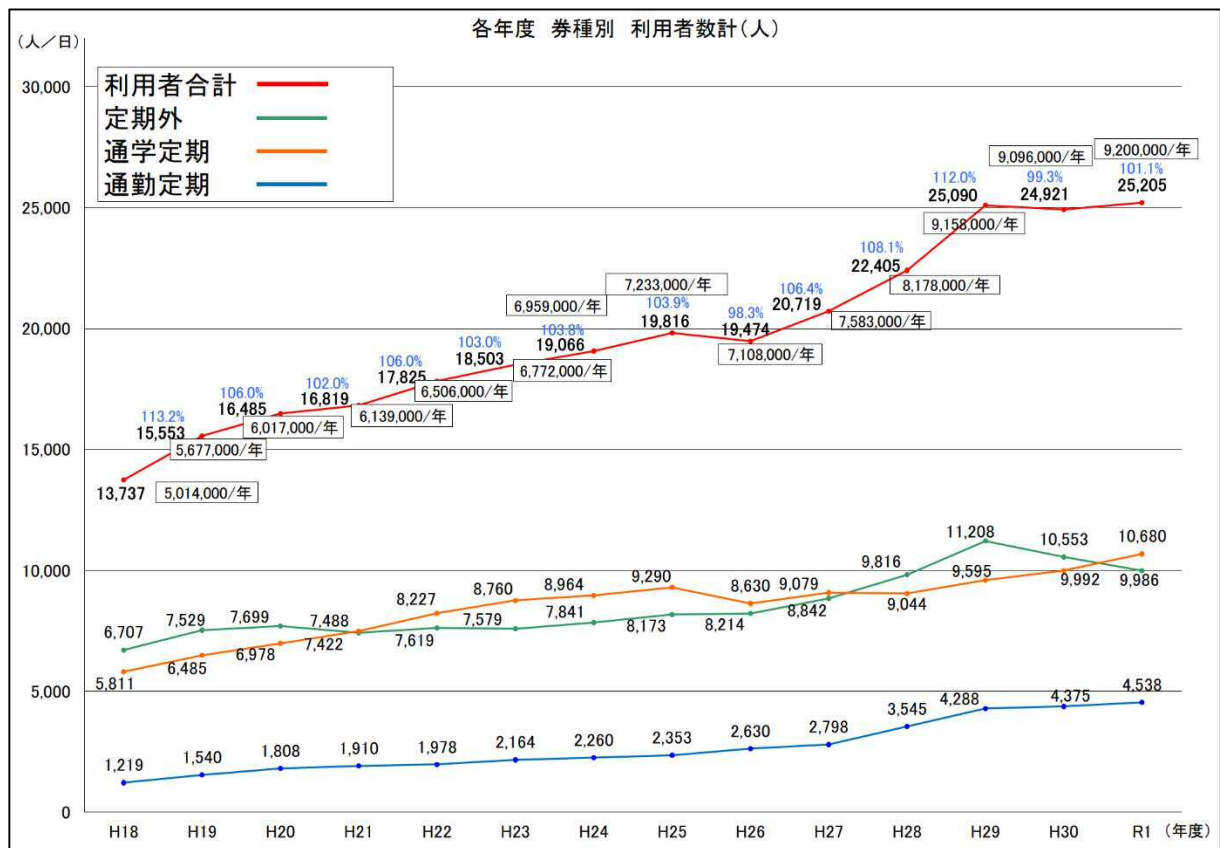
(3) 公共交通ネットワークの充実

リニモの利用者は2006年度（平成18年度）以降着実に増加し、2019年度（令和元年度）の年間利用者数は923万人と2006年度（平成18年度）以降最大の利用者数となったところであり、地域における基幹的な公共交通として重要な役割を担っている。また、2016年（平成28年）には沿線での大型商業施設の開業を踏まえ、運行本数の増加を目的としてダイヤを改正する等、輸送能力の増強によるさらなる利便性の向上を図ったところである。

また、沿線市内を運行する乗合バスやコミュニティバス路線の再編、見直しの実施に加え、長久手古戦場駅や愛知医科大学における交通結節機能の強化により、リニモを中心とした公共交通ネットワークを構築し、地域住民の生活交通確保に努めたところである。

さらには、2016年（平成28年）に藤が丘駅及び長久手古戦場駅と新城市を結ぶ高速乗合バス「山の湊号」が運行を開始する等広域における公共交通ネットワークの充実も図られてきたところである。

＜リニモの利用状況＞



(4) にぎわい創出、魅力発信による地域活性化

これまで沿線地域の活性化に向けて、自治体が主体となったりリコモ利用促進策や沿線住民及び学生と連携したにぎわい創出を目的とした地域の魅力発信イベントを実施してきた。また、沿線施設においてもそれぞれの地域資源を活用したイベントを開催する等自治体、住民、企業等が一体となり、地域活性化に取り組んできた。

さらには、シンポジウム、ワークショップ、市民講座の開催を通じて住民が参画するまちづくりについても取り組んできたところであるが、2021年(令和3年)には長久手古戦場駅周辺にリコモテラス公益施設の供用開始が予定されていることから、本施設を中心としてより多様な主体が参画するまちづくりに対する取組のさらなる推進が期待されることである。

<沿線における地域活性化の取組>



地球市民交流センターにおける
体験学習プログラム等



海上の森におけるNPO団体による
森林整備や体験学習プログラム



リコモ駅構内における作品展示



おんぱく



車両基地見学



「知の拠点あいち」における
見学受入や科学教室等



リコモウォーキング



もりの学舎における
インタープリターと歩く森のツアー



平成こども塾

3 沿線地域をとりまく状況

(1) 持続可能な開発目標（SDGs）の取組の広がり

SDGsとは2015年（平成27年）9月の国連サミットにおいて、日本を含む193の加盟国の合意により採択された2030年（令和12年）の未来を実現するための17のゴール（目標）と169のターゲットからなる持続可能な開発目標であり、国際社会だけでなく、地域の持続的な発展にとっても重要かつ普遍的な目標となっている。

愛知県においては2019年（令和元年）7月に「SDGs未来都市」に選定され、SDGs達成に向けた取組が本格化してきている。リニモ沿線地域は、愛・地球博の開催を契機に他地域に先駆け、「開発」と「保全」の調和を図る等持続可能なまちづくりに取り組んできた地域であり、引き続きその取組を継続するとともにSDGsの理念である「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、多様な主体との連携による取組を推進することが必要である。

<SDGsの17のゴール>



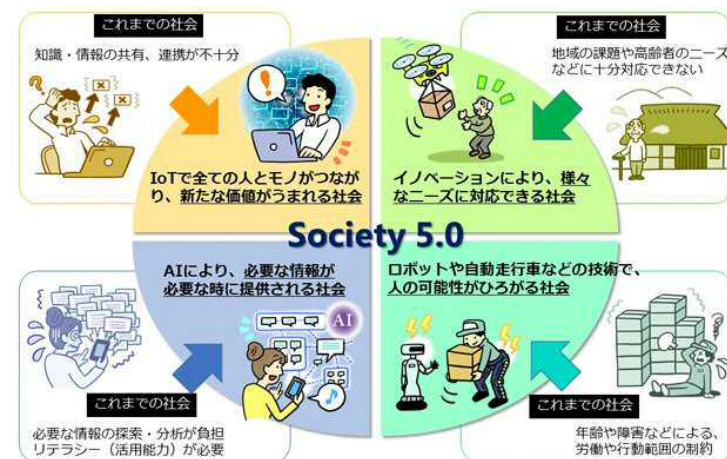
(出典：国際連合広報センターHP)

(2) 情報通信技術を活用した社会への変化

近年の情報通信技術（ICT）の進化は目覚ましく、イノベーションの進展による経済社会構造の大きな変革が世界的潮流として進行する中、インターネットで人とモノがつながるIoT化が進み、AIの進化も含めたデジタル化の進んだ社会像「Society5.0」の実現による社会全体へのデジタルトランスフォーメーションの推進に向けた取組が進められている。

また、まちづくりにおいては、都市の抱える諸課題に対して、ICT等の新技術を活用しつつ、マネジメント（計画、整備、管理・運営等）が行われ、全体最適化が図られる持続可能な都市である「スマートシティ」への取組が各地で進められており、リニモ沿線地域においても、地域が抱える課題を解決するため、ICT等を活用したまちづくりを推進することが必要である。

<Society5.0のイメージ>



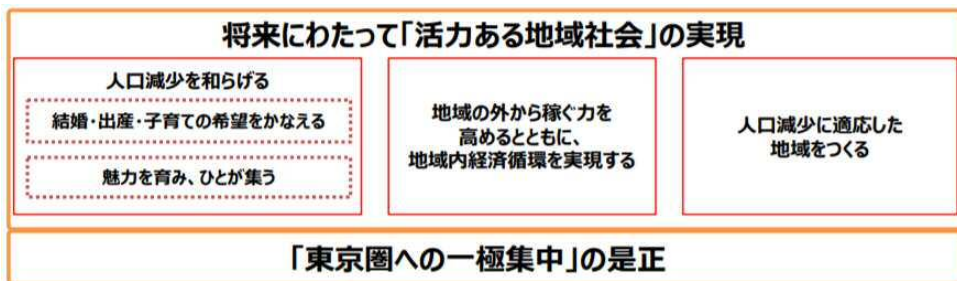
(出典：内閣府HP)

(3) まち・ひと・しごと創生による地域活性化の動き

国においては2014年(平成26年)に制定された「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、将来にわたる「活力ある地域社会」の実現と、「東京圏への一極集中」の是正を目指すため、地方創生の目指すべき将来や今後5か年の目標を定めるとともに、「多様な人材の活躍を推進する」、「新しい時代の流れを力にする」といった横断目標を追加した新たな施策の方向性等を示している。

愛知県においても2020年(令和2年)3月に「第2期愛知県人口ビジョン・まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、「日本一元気で、すべての人が輝く、住みやすい愛知」を目指して取組を推進しており、リニモ沿線地域においても各沿線市が策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づく取組を着実に推進し、引き続き地域活性化を図っていくことが必要である。

＜第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の目指すべき将来の姿＞



(出典：まち・ひと・しごと創生本部)

(4) 新たなモビリティサービスの社会実装に向けた取組

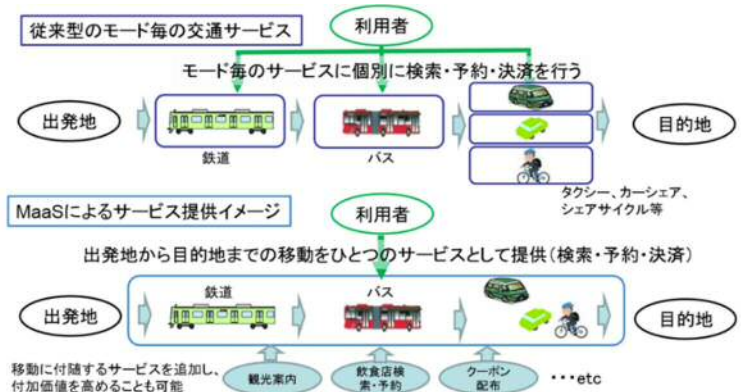
近年、全国各地において、交通事故の減少や交通不便地における移動手段の確保等をもたらす自動運転社会の実現に向けた取組や移動手段選択の最適化による混雑緩和や環境負荷低減などの様々な効果が期待できるMaaS実装に向けた取組等新たなモビリティサービスの社会実装に向けた取組が推進されている。

愛知県では「自動運転社会実装プロジェクト推進事業」における実証実験や「MaaS推進会議」における社会実装に向けた取組が進められているところであり、リニモ沿線地域においても、これらの取組を積極的に推進し、新たなモビリティサービスの実現による移動の効率性や利便性が確保される地域を目指していくことが重要である。



モリコロパークにおける実証実験の車両(マイリー)

＜MaaSによるサービス提供のイメージ＞



(出典：国土交通省)

(5) リニア中央新幹線の事業推進

現在、リニア中央新幹線（名古屋・東京間）の2027年度（令和9年度）開業、さらにはその後の早期全線開業に向けた取組が進められており、リニア中央新幹線が大阪まで全線開業することで、三大都市圏を包含する世界最大規模の人口7千万人のスーパー・メガリージョンが形成されることとなる。それに伴う交流の拡大がもたらす社会経済効果を圏域全体に広く波及させていくため、愛知県においては「名古屋駅のスーパーターミナル化」や「40分交通圏の拡大」等による総合的な交通ネットワークの充実が推進されており、リニモ沿線地域においては都市機能の充実や魅力向上によりリニア中央新幹線開業による交流人口の拡大を受け止めるための取組を推進することが必要となる。

<名古屋駅のスーパーターミナル化のイメージ>



リニア車両
(出典：山梨県立リニア見学センターHP)

(6) ジブリパークの開業と観光振興

愛知県では、愛・地球博の理念・成果を次世代へ継承するため、愛・地球博記念公園内に「青春の丘エリア」、「ジブリの大倉庫エリア」、「もののけの里エリア」、「魔女の谷エリア」、「どんどこ森エリア」の5エリアからなるジブリパークの2022年（令和4年）秋の開業に向けた整備を行うとともに、ジブリパークの開業を見据えた「あいち観光戦略2021-2023」を策定し、県内の観光振興に向けた取組が進められていく予定である。リニモ沿線地域においては、ジブリパークの開業に伴い、国内外からの旅行者の増加が期待される場所であり、ジブリパーク開業のインパクトを沿線地域全体で受け止め、その効果を広く波及させる取組を推進することが必要となる。

＜ジブリパークの整備エリアと想定来場者数＞

| エリア名 | 面積 | 主な建築施設（延床面積） |
|-------------|--------|---------------------|
| ①青春の丘エリア | 約0.8ha | 地球屋（約300㎡） |
| ②ジブリの大倉庫エリア | 約0.8ha | ジブリの大倉庫（約9,600㎡） |
| ③どんどこ森エリア | 約1.8ha | ＜既設＞サツキとメイの家（約100㎡） |
| ④もののけの里エリア | 約0.8ha | 実施設計が未実施のため未定 |
| ⑤魔女の谷エリア | 約2.9ha | |
| 計 | 約7.1ha | |

＜参考＞ 愛・地球博記念公園全体（都市計画決定面積） 約194ha

| | 5エリア開業時 | 3エリア開業時 |
|-----------|---------|---------|
| 愛・地球博記念公園 | 約280万人 | 約200万人 |
| うち、ジブリパーク | 約180万人 | 約100万人 |

＜参考＞ 愛・地球博記念公園来園者数(2018年度)

約156万人(2018年度で廃止した温水プール入場者数約10万人を除く)

＜ジブリパークによる経済波及効果＞

| 効果 | 整備による建設投資に関する波及効果 | 開業（5エリア）により新たに創出される消費増に関する波及効果 |
|----------|-------------------|--------------------------------|
| 直接効果 | 約340億円 | 約283億円/年 ＜約205億円/年＞ |
| 1次間接波及効果 | 約320億円 | 約121億円/年 ＜約90億円/年＞ |
| 2次間接波及効果 | 約180億円 | 約76億円/年 ＜約55億円/年＞ |
| 総合効果（合計） | 約840億円 | 約480億円/年 ＜約350億円/年＞ |

(注) ＜ ＞内は、開業初年度（3エリア）の波及効果

(7) 大規模スポーツ大会の開催

愛・地球博記念公園をメイン会場として開催予定であった FIA 世界ラリー選手権日本ラウンド「ラリージャパン」は新型コロナウイルス感染症の拡大により 2020 年（令和 2 年）の開催が中止となったが、2021 年（令和 3 年）の開催が予定されており、また、2026 年（令和 8 年）には愛知・名古屋において「アジア競技大会」の開催が予定されている。

これらの世界的大規模スポーツ大会の開催においては国内外から多くの大会関係者や観戦者が来県することが予想されることから、リニモ沿線地域においては「愛・地球博」や「ラグビーワールドカップ 2019」の開催経験を活かし、多くの来県者を沿線地域に取り込むための取組を推進することが必要となる。

(8) 新型コロナウイルスの影響

2019 年（令和元年）末から 2020 年（令和 2 年）にかけて、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が世界で大流行し、人々の日常生活や経済活動に厳しい制限をもたらし、世界の経済、社会に深刻な影響を与え、新しい生活様式による社会経済活動が求められることとなった。

ウィズコロナ・ポストコロナ時代においては、感染症の拡大等先行きが不透明であり、確実な見通しを持つことは困難であるものの、感染拡大防止と社会経済活動の両立が求められる中において、感染症に対するリスク管理を行い、「新たな日常」の実現を目指す必要がある。

リニモ沿線地域においてもウィズコロナ・ポストコロナ時代を見据え、「新たな日常」を実現し、安全・安心で持続可能な地域に向けた取組を推進していくことが必要である。

4 重点プランの基本的な視点

リニモ沿線地域では、構想により示した2025年（令和7年）を展望したリニモ沿線地域の将来像である「愛・地球博の成果を継承・発展させるまち」、「次世代産業の育成をリードする産学行政の研究開発エリア」、「リニモでつながる「コンパクト」なまち」の実現に向けて、市街地整備の進展による「居住人口」の増加、広域的な観光の推進による「交流人口」の増加に着実に取り組んできた。

今後の5年間においては、2022年（令和4年）秋のジブリパークの開業が予定されており、これまで取り組んできた「交流人口」の増加に資する取組をさらに強化し、沿線地域の魅力向上を図ることによりジブリパークの開業効果を沿線地域全体で受け止め、広く波及させることが重要である。

また、長久手古戦場駅から東側を中心に進められてきた市街地整備についてはこれまで着実に進展してきていることから、今後はリニモ沿線地域全体のまちの質を高めることによる持続可能なまちづくりが必要となる。

以上を踏まえ、本プランにおいては、前プランによる取組を継承・発展させた以下の3つのキーワードを設定したうえで2025年（令和7年）までに取り組むべき施策を取りまとめることとする。

<リニモ沿線地域づくりのキーワード>

■前プランにおける3つのキーワード

- 市街地整備の着実な推進等による「住みたくなる沿線」
- 観光やイベント等の交流の推進による「訪れたくなる沿線」
- 「住みたくなる・訪れたくなる沿線を支える交通基盤」

【沿線を取りまく状況】

- ・持続可能な開発目標（SDGs）の取組の広がり
- ・情報通信技術を活用した社会への変化
- ・まち・ひと・しごと創生による地域活性化の動き
- ・新たなモビリティサービスの社会実装に向けた取組
- ・リニア中央新幹線の事業推進
- ・ジブリパークの開業と観光振興
- ・大規模スポーツ大会の開催
- ・新型コロナウイルスの影響

本プランにおけるリニモ沿線地域づくりの3つのキーワード

ジブリパークを核とした地域の魅力向上による

「何度も訪れたくなる沿線」

充実した都市機能と自然環境が調和した

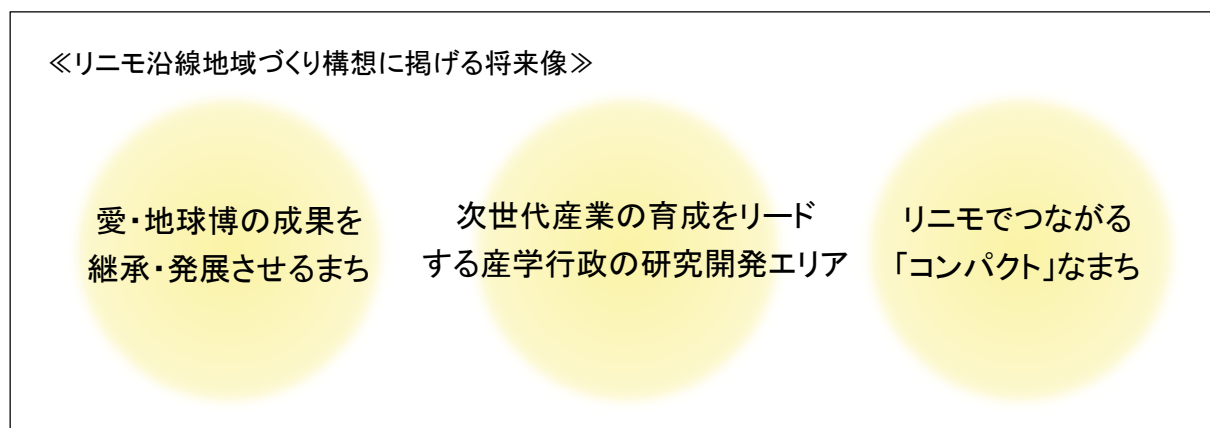
「住み続けたくなる沿線」

効率的で快適な移動を可能にする

「誰もが使いやすい交通の実現」

第3章 重点戦略と主要施策

重点プランの基本的な視点を踏まえ、「リニモ沿線地域づくり構想」に掲げる将来像（一部見直し）の一層の具体化に向けた5つの「重点戦略」、16の「主要施策」を示す。



| キーワード | 重点戦略 | 主要施策 | |
|-------------------------------------|--|--|------------------------------|
| ジブリパークを核とした地域の魅力向上による「何度も訪れたくなる沿線」 | <重点戦略1> 魅力向上によるにぎわいの創出、交流の促進 | ①ジブリパークの整備とパークを核としたにぎわいの創出 | |
| | | ②ホスピタリティに溢れたおもてなし体制の整備 | |
| | | ③地域資源の活用による魅力向上 | |
| | | ④広域連携による観光の推進 | |
| 充実した都市機能と自然環境が調和した「住み続けたくなる沿線」 | <重点戦略2> イノベーションの促進、次世代産業の育成 | ⑤次世代産業のさらなる振興に向けた人材育成、企業育成 | |
| | | ⑥先端研究開発や実証研究の推進 | |
| | | <重点戦略3> 持続可能な集約型まちづくりと自然環境との共生 | ⑦駅を中心とした概ね1km圏内の計画的な市街地整備の推進 |
| | | | ⑧駅周辺の都市機能充実 |
| ⑨ICT等を活用したスマートシティの実現 | | | |
| <重点戦略4> 地域づくり活動の活性化 | <重点戦略5> 効率的で利便性の高い交通体系の構築 | ⑩自然環境の適切な維持管理と農あるくらしの推進 | |
| | | ⑪豊かな自然を活かした地域づくりと脱炭素・循環型社会に向けた取組 | |
| | | ⑫沿線住民や沿線大学・学生と協働した地域づくり | |
| 効率的で快適な移動を可能にする「誰もが使いやすい交通の実現」 | <重点戦略5> 効率的で利便性の高い交通体系の構築 | ⑬市民活動の活性化 | |
| | | ⑭公共交通の充実・利用促進 | |
| | | ⑮道路交通網の形成及び愛・地球博記念公園周辺道路の渋滞対策 | |
| | | ⑯新たなモビリティサービスの実現による移動の円滑化 | |

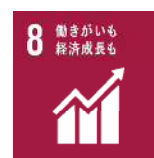
1 ジブリパークを核とした地域の魅力向上による「何度も訪れたくなる沿線」

重点戦略1 魅力向上によるにぎわいの創出、交流の促進

2022年（令和4年）秋に愛・地球博記念公園内においてジブリパークが開業することに伴い、その開業効果をリニモ沿線地域全体で受け止め、波及させることが重要となるため、沿線地域が有する地域資源の磨き上げや来訪者を迎えるにあたってのおもてなし体制の整備を図ることにより、沿線地域への周遊・滞在を促し、さらなるにぎわいの創出、交流の促進につなげていく。また、新型コロナウイルス感染症に適応したかたちの観光の普及・啓発を進めながら継続して訪れてもらえる地域を目指していく。

【主要施策1】ジブリパークの整備とパークを核としたにぎわいの創出

2022年（令和4年）秋に開業を予定しているジブリパークの整備を着実に推進し、同パークの開業にあたっては開業効果をリニモ沿線地域全体で受け止め、その効果を沿線地域に波及させるため、世界中から訪れる旅行者に沿線地域への周遊・滞在を促す取組を推進し、にぎわいを創出する。

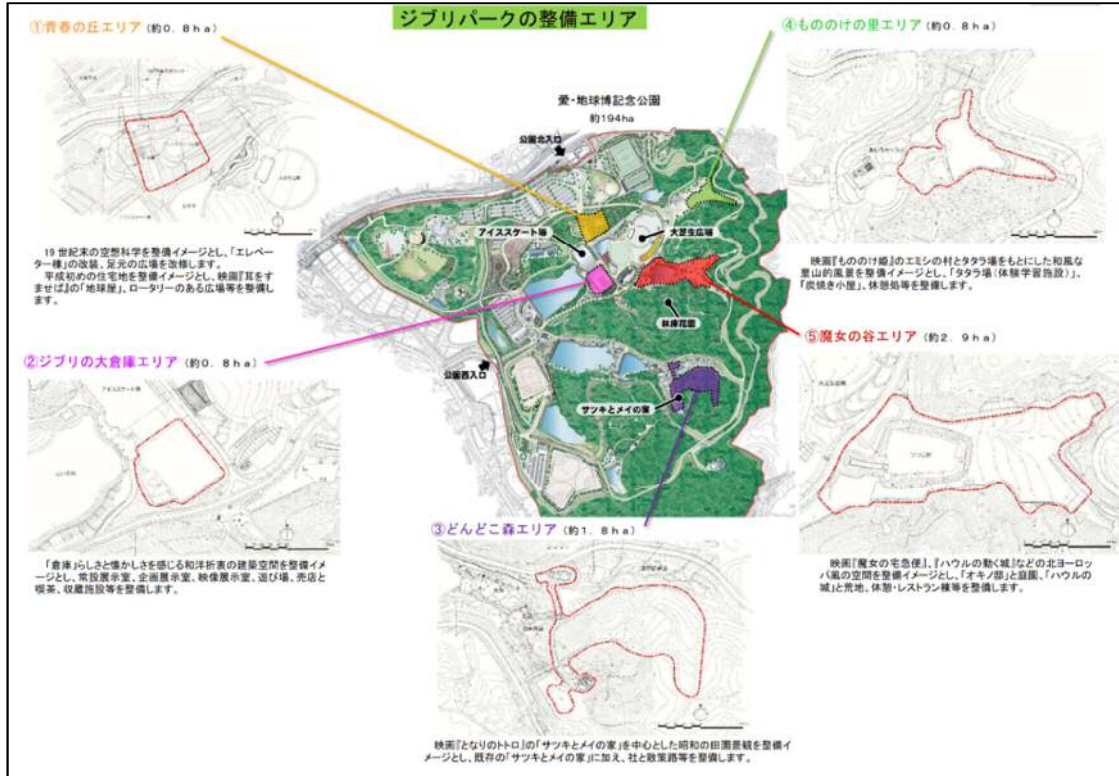


（ジブリパークの整備）

●ジブリパーク構想の推進

- ・愛・地球博とジブリパークで表現されるスタジオジブリの作品に通底する「人、いきもの、地球に対する「愛」という理念と成果を次世代へ継承するとともに、その会場となった愛・地球博記念公園について、将来にわたって愛され、後世に引き継がれる公園とするため、同公園において、日本が世界に誇るスタジオジブリの世界観を表現した唯一無二の公園施設であるジブリパークの整備を、2022年秋の開業に向けて推進していく。
- ・また、愛・地球博記念公園ではジブリパークエリア外の公園施設についてもジブリパークと調和した意匠やデザインに配慮しつつ整備を行い、公園全体の魅力を高めていく。

＜ジブリパーク整備図＞



(ジブリパーク開業に向けた環境整備)

●交通拠点(名古屋駅、中部国際空港)とのアクセス向上

- ・本県における旅行者の玄関口となる名古屋駅及び中部国際空港からジブリパークをはじめとしたリニモ沿線地域への直通バスの運行等アクセス向上に向けた取組を推進する。

●宿泊施設(民泊含む)の整備

- ・名鉄瀬戸線尾張瀬戸駅周辺においては、ジブリパークの開業効果を広く地域に波及させることを目的として宿泊施設誘致に向けた検討を行う。
- ・また、他の沿線地域においては、宿泊施設の誘致可能性及び既存施設を活用した民泊実施の可能性について検討を行う。

●愛・地球博記念公園総合案内センターにおける情報発信

- ・愛・地球博記念公園北口に整備される予定の総合案内センターにおいて、リニモ沿線地域の観光情報を提供することにより沿線地域への周遊・滞在を図る。

●サテライトショップの設置

- ・愛・地球博記念公園内において、沿線地域の名産品・特産品を販売するサテライトショップを設置することにより沿線地域の魅力を発信する。

●藤が丘駅及び八草駅における情報発信

- ・リニモの玄関口である藤が丘駅及び八草駅において沿線市の観光情報を提供することによりリニモ沿線地域を含めた沿線市内への周遊・滞在を図る。

(ジブリパークを核とした交流人口の拡大)

●ジブリパーク開業に向けた沿線全体の盛り上げ

- ・ジブリパークの開業にあたり、鉄軌道事業者や地域住民と連携し、藤が丘駅、愛・地球博記念公園駅、八草駅等においてジブリ作品の世界観と調和した意匠やデザインに配慮した歓迎装飾の実施やジブリパーク開業記念イベントを行い、ジブリパーク開業に向けた機運を地域全体で盛り上げていく。

●ナイト観光の充実

- ・県の「ナイト観光促進事業」を活用した長久手市観光交流協会の「光の切り絵事業」等、夜も楽しめるイベントを開催し、旅行者のリニモ沿線地域への周遊・滞在を促進する。



光の切り絵の様子

●沿線施設周遊に向けた取組

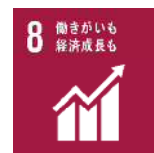
- ・ジブリパークを訪れた旅行者をリニモ沿線の文化・芸術・観光施設に誘導するため、沿線施設周遊企画チケットの造成について検討する。
- ・日進市竹の山地区を中心とした「カフェツーリズム」等新たな観光需要を取り込んだ沿線周遊プランを企画し、沿線周遊の促進を図る。

●沿線情報の一体的な発信

- ・「リニモ沿線イベントガイド」や「リニモ沿線マップ」を引き続き作成・配布するとともに、メールマガジン及びツイッターを活用し、積極的な情報発信を行う。また、外国人留学生と連携し、外国人旅行者向けに効果的な情報発信について検討を行う。

【主要施策2】ホスピタリティに溢れたおもてなし体制の整備

ジブリパークの開業に伴い、リニモ沿線地域には国内外から多くの旅行者が来訪することが想定されるため、沿線地域全体でホスピタリティに溢れたおもてなし体制を整備し、受け入れ環境の充実を図ることにより、何度も訪れたいリニモ沿線地域を目指す。



(地域のおもてなし体制の充実)

●名産品・特産品のPR及び開発

- ・旅行者をターゲットにリニモ沿線地域の名産品・特産品をPRすることにより、沿線地域の魅力向上を図る。また、地域資源のさらなる掘り起こし・磨き上げによる新たな名産品・特産品の開発に向けた検討を行う。

< 沿線地域の名産品・特産品 >



日月もなか(豊田市) 出典: 愛知県観光協会



長久手名物古戦場最中(長久手市)
出典: 愛知県観光協会



果流 純米吟醸 夢吟香(日進市)



瀬戸焼(瀬戸市)
出典: 瀬戸市まるっとミュージアム・観光協会



うみあつ手羽(名古屋市)

●ガイドボランティアの育成

- ・県における「あいち観光ボランティアガイドの会」によるガイドボランティアの育成支援や各観光協会における地元学生等のガイドボランティアの育成支援を通じて、数多くのガイドボランティアを育成し、各観光施設等において案内等を行うことにより気持ちよく滞在してもらおう環境を整備する。

(旅行者を迎え入れる環境整備)

●案内表示・サイン等の多言語表記及びユニバーサルデザイン化

- ・県の「観光施設費等補助金」や「多言語コールセンター運営事業」を活用する等により、リニモ沿線施設における案内表示・サイン等の多言語表記及びユニバーサルデザイン化を推進する。

●通信環境整備(無料公衆無線LAN整備)

- ・愛・地球博記念公園をはじめとした各種施設やリニモ駅等においてすでに整備されている無料公衆無線LANについて広く周知するとともに、旅行者が多数訪れる施設等無料公衆無線LANに対する需要が見込める施設等については新たに整備を検討する。
- ・県内で設置されている無料公衆無線LANに簡易に接続でき、場所を移動しても一々認証の登録の必要なく継続して接続が可能な外国人旅行者向けアプリの配信を行う。



Aichi Free Wi-Fi ステッカー



NAGOYA Free Wi-Fi ステッカー

●キャッシュレス対応可能場所の整備

- ・リニモ沿線地域における事業者のキャッシュレス決済導入を促進し、旅行者の利便性、満足度向上を図る。

●旅行者に対する安心・安全の確保

- ・SNSやウェブサイト等による災害情報の発信、避難場所や避難方法に関するチラシの配布等による災害に関する情報の発信に加え、ムスリム対応施設の情報提供等外国人も含めたすべての旅行者に対する安全・安心の確保に取り組む。
- ・また、大規模災害の発生時には「愛知県多言語コールセンター」や「愛知県災害多言語支援センター」を通じて、多言語による情報提供や被災した沿線市に対する翻訳・通訳支援を行う。

【主要施策3】地域資源の活用による魅力向上

リニモ沿線地域が有する文化・歴史・芸術等の地域資源を磨き上げるとともに、新たな地域資源の掘り起こしに取り組むことにより、沿線地域のさらなる魅力向上を図る。また、沿線地域の魅力を国内外に広く発信することにより沿線地域への周遊・滞在を促し、ジブリパークの開業効果を沿線地域に広く波及させる。



(リニモを活用した魅力発信)

●車両基地見学会の実施

- ・日本で唯一の磁気浮上式リニアモーターカーであるリニモを観光資源とし、「リニモ車両基地見学会」を実施することによりリニモの魅力を体験してもらう。
- ・また、「リニモ車両基地見学会」においてはリニモ沿線ウォーキングイベントや沿線施設における体験講座イベント等他のイベントと連携することでより多くの方にリニモの魅力を体感してもらう。



リニモ



リニモ車両基地見学

●リニモ駅構内を活用したにぎわいの創出

- ・愛・地球博記念公園駅構内にある展示パネルや駅連絡通路を活用し、児童作品等を展示することにより、沿線のにぎわいづくりに取り組む。



駅構内における作品展示の実施風景

●リニモ沿線ウォーキングイベント、体験講座イベントの開催

- ・リニモ沿線地域の文化・芸術・観光施設と連携したリニモ沿線ウォーキングイベント、沿線施設における体験講座イベントを開催することにより、リニモ沿線地域の魅力を感じてもらいながらにぎわいの創出やリニモの利用促進を図る。



体験講座イベントの開催風景



リニモ沿線ウォーキングイベントの開催風景

<リニモ沿線ウォーキングイベントルートマップ>



(試験研究機関等の公開、体験型学習・交流活動の実施)

●知の拠点あいちにおける見学受入、科学技術教室等の実施

- ・「知の拠点あいち」において、最先端の研究施設を公開する「見学会」、「科学技術教室」及び「サイエンスフェスタ」を開催し、研究内容に対する県民の理解や科学技術の普及啓発を図る。

●農業総合試験場公開デーの実施

- ・「農業総合試験場」では研究成果の紹介や研究施設の見学、農業や農産物に関連した実験の体験、最新農業技術の体感が可能な「農業総合試験場公開デー」を毎年秋に開催し、農業に対する県民の理解を深め、農業における試験研究の役割と重要性に対する理解促進を図る。

●あいち海上の森センターにおける体験プログラム等の実施

- ・「あいち海上の森センター」ではNPO団体「海上の森の会」による「自然観察会」や「体験学習プログラム」のほか、「企業連携プロジェクト」による森林整備や森林体験活動を実施し、県民が自然と触れ合い交流する場、自然環境の適正な保全のための取組等を推進する場として海上の森を活用する。

●もりの学舎における工作体験等の実施

- ・愛・地球博記念公園内にある「もりの学舎」において、「あそび工房」等の工作体験や「インタープリターと歩くもりのツアー」等の自然体感プログラムを実施し、自然とのふれあいの場を提供する。

●あいちサトラボ「農のエリア」における体験プログラム等の実施

- ・愛・地球博記念公園内の「あいちサトラボ」の「農エリア」において、「サトラボ体験隊」や「サトラボ作り隊」等の里山体験プログラムを開催し、里山の循環型農業を通じた農の営みや先人の知恵を実体験する機会を提供する。

●児童総合センターにおける体験プログラム等の実施

- ・「愛知県児童総合センター」では児童の健全育成を目的とした親子で遊ぶプログラム等各種体験プログラムの実施に加え、愛知高速交通（株）と協力した「リニモたんけん隊」の実施、リニモの歴史や仕組みを展示した「リニモコーナー」の常設設置を行い、リニモの魅力発信に取り組むとともに、ジブリ作品の世界観と調和した意匠に配慮した体験プログラム等の企画について検討を行う。

●平成こども塾における体験活動等の実施

- ・「平成こども塾」においては、こどもたちの生きる力の育成を目的に里山の豊かな環境を活かした体験活動や地域の環境についての学習活動を実施する。

(沿線の歴史や文化・芸術の魅力向上)

●愛知県陶磁美術館における企画展等開催

- ・「愛知県陶磁美術館」では、魅力のある企画展や特別企画展の開催、陶芸館における陶芸体験や陶芸教室の実施により陶磁文化の振興を図る。また、リニモ一日乗車券購入者等に対する観覧料割引によるリニモの利用促進を引き続き実施する。

●音楽イベント「おんぱく」の開催

- ・未就学児から小学生までの親子連れを対象とした音楽イベント「おんぱく」を開催し、住民の文化芸術活動への意識向上を図る。



おんぱくの様子

●文化・芸術・観光施設との連携イベントの実施等

- ・リニモ沿線にある文化・芸術・観光施設と連携したイベント等を実施することにより、沿線の魅力を発信し、地域全体の活性化と地域文化活動の振興を図る。

●野外音楽施設の活用やイベントの開催等

- ・愛・地球博記念公園において、「モリコロパーク春・秋まつり」やご当地グルメイベント等集客力のあるイベントのほか野外音楽施設を活用した音楽イベントを開催し、リニモ沿線地域のにぎわいを創出する。

●愛知県立芸術大学「メディア映像専攻」と連携したイベントの検討

- ・2022年（令和4年）4月に開設が予定されている愛知県立芸術大学メディア映像専攻と連携し、デジタルメディアを利用した映像表現及び最新技術を活用した芸術を取り入れた地域活性化イベントの開催について検討する。

●地域ブランディング事業

- ・「せとまちブランディング戦略」に基づき、自然と共生しながら育まれてきた「ものづくり文化」ややきものづくりとも深く関わってきた「里山」といった瀬戸の魅力を広く発信することにより、定住人口の増加や地域の活性化を図る。
- ・「アートする」をキーワードとした「長久手市地域ブランディング事業」を推進し、「長久手らしさ」や「長久手ならではの」モノ、コトなどを見つめなおし、地域・観光ブランドを確立することにより地域の魅力向上を図る。

●ながくてアートフェスティバルの開催

- ・アートを通じて人と人を繋ごうというコンセプトのもと、長久手市内の各所を舞台にコンサートやワークショップ等が行われる「ながくてアートフェスティバル」を開催し、地域文化活動の振興を図るとともに地域のにぎわいを創出する。

●藤が丘駅周辺の活性化

- ・「藤が丘中央商店街振興組合」が実施する地域の魅力を発信するイベント等、地域活性化に向けた取組を促進する。

(リニモ沿線の活性化に向けた事業推進)

●フォトキャンペーンの成果を活用した魅力発信

- ・2019年（令和元年）に実施したリニモと沿線地域の魅力をテーマとした写真をSNSに投稿する「フォトキャンペーン」において作成した写真集を地域活性化イベント等で配布し、沿線地域の魅力を発信する。

<リニモ沿線ミニ写真集>



<リニモ沿線見どころMAP>



●ラリージャパン開催による沿線活性化

- ・愛・地球博記念公園をメイン会場として2021年（令和3年）に開催される予定のFIA世界ラリー選手権日本ラウンド「ラリージャパン」の開催に向けた機運を高めるためにリニモ駅構内における歓迎装飾などの実施を検討する。
- ・「ラリージャパン」に訪れた人をターゲットとしたリニモ沿線地域の観光PRを行い、沿線地域への周遊・滞在を促進する。

●「愛・地球博」の理念とジブリパーク基本理念が融合したイベントの開催

- ・ジブリパークを含む「愛・地球博記念公園」と「瀬戸万博記念公園」が連携し、ジブリ作品の世界観と調和した意匠に配慮したイベントの開催を検討する。

【主要施策4】 広域連携による観光の推進

リニモ沿線地域には数多くの魅力ある地域資源が存在するため、それらの資源と沿線地域外の観光資源を結びつけることにより広域観光の推進を図るとともに、アジア大会等大規模スポーツイベントにおける来訪者を沿線地域に取り込むための方策を検討する



(広域観光推進による沿線地域への誘客)

●モデルルート作成、PR等

- ・過去に作成したリニモ沿線地域内外を周遊する観光モデルルートの見直しを実施したうえでPRを行い、沿線地域の魅力を発信する。
- ・ジブリパークの開業を見据え、「アニメの聖地」とされる岐阜県飛騨市（「君の名は。」）や同県大垣市（「聲の形」）とのモデルルート、日本遺産に認定されている「六古窯」の瀬戸市と常滑市を結ぶモデルルート、「小牧・長久手の戦い」ゆかりの場所を巡るモデルルート等新たな観光モデルルートについても検討する。

●リニモ沿線地域を拠点とした広域観光の推進

- ・名古屋城をはじめとした「歴史観光」、ものづくりのまち名古屋を象徴する「産業観光」等魅力的なコンテンツを発信し、名古屋市内への誘客を促進することにより、交流人口の拡大を図る。
- ・「六古窯」の日本遺産認定を活かした魅力発信や瀬戸焼のPRを行い、リニモ沿線地域から瀬戸市内への誘客を図り、観光を軸としたまちの活性化戦略である「せと・まるっとミュージアム」を推進する。
- ・藤が丘駅及び長久手古戦場駅から新城方面へ運行している高速乗合バス「山の湊号」や「小原四季桜まつり」及び「香嵐溪もみじまつり」開催時に八草駅から運行しているシャトルバス等リニモ沿線地域と観光地を結ぶ公共交通をPRし、沿線地域と県内観光地への来訪者増加につなげる。
- ・日進市内に開業を予定している道の駅において、地域版DMOの活動拠点を整備し、観光ルートのPRや観光情報の発信等を行うことにより、日進市内への周遊を促進する。

●岐阜県と連携した観光施設ネットワーク化（「見にトリップ／戦トリップ」）

- ・愛知・岐阜広域観光推進協議会において、両県に存在する伝統工芸から自動車、航空宇宙などの様々な分野の「産業観光施設」、戦国武将が実際に活躍した戦場や居城跡などの「武将観光施設」周遊する「あいちとぎふ 見にトリップ×戦トリップ（産業・武将観光）スタンプラリー」を開催し、観光振興を図る。

●アジア競技大会における来訪者の沿線地域への誘導

- ・2026年（令和9年）に開催が予定されている「第20回アジア競技大会（2026/愛知・名古屋）」においては、大会運営関係者や旅行者等多くの来訪者が予想されることから、おもてなし事業の実施により大会を盛り上げるとともに、リニモ沿線地域の魅力発信を行い、沿線地域への周遊・滞在を促すための取組を推進する。

＜愛知県のアジア競技大会開催に係る観光・文化の基本施策＞

| 基本施策 | 主な取組 |
|-----------------------|--|
| 2-1.愛知を中心とした観光交流拠点の形成 | ①アジア競技大会のPRと併せた愛知の魅力発信 ②アジアからの来訪者向けのツアー造成 ③食文化の魅力の発信 ④広域観光の推進 |
| 2-2.スポーツ・文化等のコンテンツの充実 | ①スポーツツーリズムの推進 ②文化芸術イベントの展開 ③産業観光・歴史観光の推進 |
| 2-3.受入環境の整備、おもてなしの充実 | ①来訪者の利便性の向上 ②案内機能・多言語対応の充実 ③多様な文化・宗教への配慮 |

●テーマ別観光の推進

- ・リニモ沿線地域はトヨタ博物館や陶磁美術館といった「モノづくり」に関する施設や長久手古戦場をはじめとした「歴史」に関する施設を有しており、これら「モノづくり」や「歴史」といったテーマ別に域外観光施設と連携した産業観光や歴史観光にかかる旅行商品の開発に観光事業者とともに取り組む。

（プロモーション活動の実施）

●首都圏・関西圏におけるプロモーション活動の実施

- ・広域からの誘客を図るため首都圏・関西圏でのイベント等においてリニモ沿線地域のキャラクターやリニモグッズを用いて沿線地域の魅力発信を行う。

重点戦略2 イノベーションの促進、次世代産業の育成

リノモ沿線地域には周辺も含め9つの大学や「知の拠点あいち」、「愛知県農業総合試験場」、「豊田中央研究所」等の研究機関が集積し、各種研究開発や実証研究が行われるとともに、愛・地球博記念公園内においては自動運転やロボットの社会実装に向けた実証実験が実施されている。こうした研究開発機関や実証実験フィールドが集積する本地域においてスタートアップの推進や産学行政が連携した共同研究開発等に取り組み、次世代産業のさらなる振興を推進する。

【主要施策5】次世代産業のさらなる振興に向けた人材育成、企業育成

リノモ沿線地域には多数の大学が立地するため、各大学での研究成果や知見を活かし、STEM教育による人材育成に貢献するとともに、県が推進するスタートアップ・エコシステムの形成に積極的に協力することにより次世代産業のさらなる振興に向けた人材育成・企業育成に貢献する。



(次世代産業を担う人材育成)

●次世代産業を担う人材・企業の育成

- ・愛知県立大学の教育設備等を活用した知の探究講座によるSTEM教育により、未来を担う理数工学系人材の育成を図る。また、瀬戸市の「せと・しごと塾」や豊田市の「ものづくりミライ塾」等により地域ビジネスの創業や若手技術者の育成を図る。



ものづくりミライ塾の活動イメージ

●愛知県立芸術大学「メディア映像専攻」の新設

- ・デジタルメディアを利用した映像表現が、新たな芸術・デザインとして広がりを見せる中、2022年（令和4年）4月に愛知県立芸術大学に「メディア映像専攻」を新設し、アニメ・映画産業の担い手の育成や、最新技術を活用した芸術の創造を図る。

(スタートアップの推進)

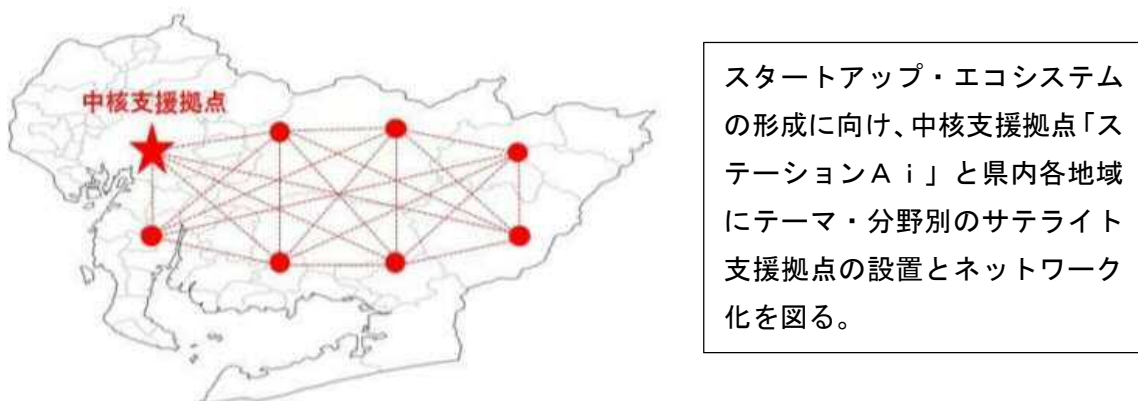
●スタートアップ・エコシステムの形成

- ・県では 2023 年度（令和 5 年度）中に整備予定のスタートアップ支援拠点「ステーションA i」を中核として、スタートアップ・エコシステムの形成に取り組んでおり、リニモ沿線地域においても、大学や企業と連携したスタートアップ支援体制の構築やサテライト支援拠点の設置など、スタートアップ・エコシステムの一部を形成していくための検討を行う。

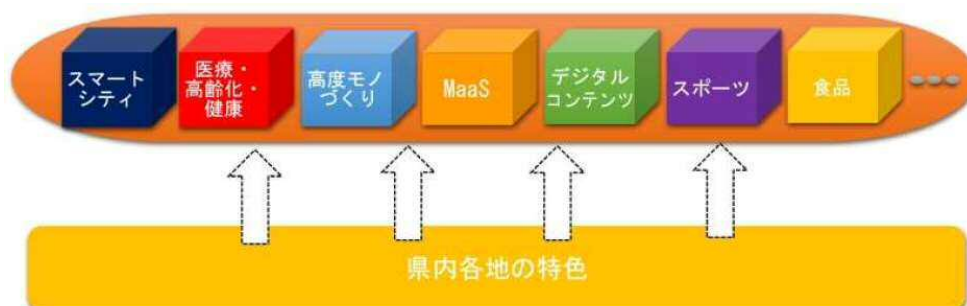
●スタートアップ支援機能の充実

- ・スタートアップが製品やサービスを実用化していく過程で必要となる自動運転やドローン飛行等の実証実験フィールドとして名古屋商科大学キャンパスを活用し、スタートアップの支援を行う。
- ・名古屋商科大学において、海外帰国子女、外国人起業家の子女、海外から招聘される日本駐在員の子女等を対象とした国際全寮制高校を設置し、海外からの優秀な人材を招聘することによりスタートアップの推進を図る。

<サテライト支援拠点の考え方>



<県内のサテライト支援拠点イメージ>



【主要施策6】先端研究開発や実証研究の推進

「知の拠点あいち」や「農業総合試験場」において、産学行政が連携した共同研究開発を進めるとともに、愛・地球博記念公園における自動運転の社会実装に向けた実証実験やロボット・ドローンの実証実験支援を通じて、県内の次世代産業のさらなる振興を推進する。



(研究開発プロジェクトの推進)

●知の拠点あいちにおける共同研究開発の推進

- ・県内の主要産業が有する課題を解決するため、大学等の研究シーズを活用し、産学行政が連携して新技術の開発や実用化を促進する「知の拠点あいち重点研究プロジェクト」を実施している。現在は「知の拠点あいち重点研究プロジェクトⅢ期」として以下のプロジェクトを実施中であり、2022年度(令和4年度)以降の製品化・実用化を目指した取組を進めている。

「近未来自動車技術開発プロジェクト」

「先進的AI・IoT・ビッグデータ活用技術開発プロジェクト」

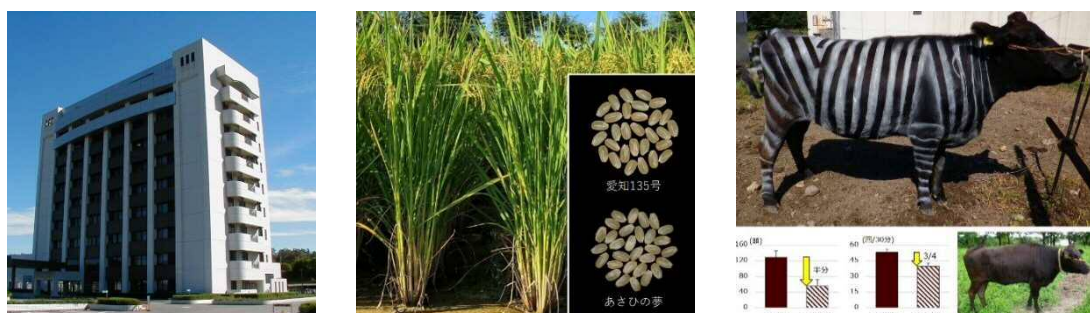
「革新的モノづくり技術開発プロジェクト」

<知の拠点あいち>



●農業総合試験場における共同研究開発の推進

- ・農業総合試験場においては、生産現場で直面する課題を解決するため大学や企業と連携して、新品種・新技術を開発するとともに、農業分野におけるICT等の先端技術の導入による生産性の向上に向けた取組を推進する。



農業総合試験場における研究開発イメージ

(実証研究・実証実験の推進)

● 知の拠点あいちにおける企業の新エネルギー実証研究の推進

- ・「知の拠点あいち」では実証研究フィールドを企業に無償で提供し、拠点内の研究開発や分析評価支援機能と一体的に運用することにより、県の新エネルギー関連産業の育成・振興を図る。

● 愛・地球博記念公園におけるロボットの実証実験の推進

- ・企業、大学、研究機関等が開発するロボット（無人飛行ロボット、移動支援ロボット、サービスロボット等）の実証実験の場として愛・地球博記念公園を活用し、ロボットの製品化・市場化を支援する。



無人飛行ロボットを使用した実験の様子

● 自動運転の社会実装に向けた実証実験の推進

- ・愛・地球博記念公園において、自動運転の実証実験を実施し、県内での将来的な自動運転の社会実装を目指す。



令和元年度 愛・地球博記念公園内での実証実験の様子

- ・名鉄米野木駅から愛・地球博記念公園間において、自動運転走行バスの実証実験を実施し、将来的には観光路線としての社会実装を目指す。

2 充実した都市機能と自然環境が調和した「住み続けたくなる沿線」

重点戦略3 持続可能な集約型まちづくりと自然環境との共生

リリモ沿線地域は、愛・地球博の理念・成果を継承し、「開発」と「保全」の調和したモデル的なまちづくりとして、地域が有する豊かな自然を保全しつつ、駅を中心に環境と共生した市街地整備に取り組み、都市機能の充実を図ってきた。

今後においても引き続き自然環境との調和を取りながら都市機能の充実を図るとともに、ICT等を活用した持続可能な集約型まちづくりに向けた取組を行っていく。

【主要施策7】駅を中心とした概ね1km圏内の計画的な市街地整備の推進

これまで長久手古戦場駅及び公園西駅周辺において市街地整備を着実に推進し、大型商業施設の出店や住宅地の開発を行ってきたところである。また、芸大通駅及び八草駅周辺においては今後の市街地整備向けの検討を行っているところであり、今後も引き続き駅を中心とした1km圏内の市街地整備に取り組む。



<取組の概況>

| 駅 | 取組 | 整備面積 | 状況 |
|------------------|------------------|--------|--|
| 長久手古戦場駅 | 長久手中央土地区画整理事業 | 約 27ha | 2021年(令和3年) リリモテラス供用開始 2022年(令和4年) 完了予定 |
| 公園西駅 | 公園西駅周辺土地区画整理事業 | 約 21ha | 2023年(令和5年) 完了予定 |
| 長久手古戦場駅 ／芸大通駅 | (仮称)日進北部土地区画整理事業 | 約 27ha | 検討段階 |
| 八草駅 | 八草地区における市街地整備 | 約 51ha | 検討段階 |

(土地区画整理事業の推進)

●長久手中央土地区画整理事業

- ・長久手古戦場駅周辺において「長久手中央土地区画整理事業」として市街地整備を実施し、イオンモール長久手や駅前広場等の整備を行ってきたところであり、引き続き「リニモテラス構想」の実現に向けて、リニモテラス公益施設の2021年（令和3年）供用開始に向けた整備に取り組み、2022年（令和4年）の事業完了を目指す。



長久手中央土地区画整理事業 設計図

●公園西駅周辺土地区画整理事業

- ・公園西駅周辺において「公園西駅周辺土地区画整理事業」として市街地整備を実施し、IKEA長久手の立地、住宅地開発等の整備を行った。公園西駅周辺は豊かな自然環境に囲まれた地域であることから引き続き「環境配慮型まちづくり基本整備計画」に基づく市街地整備を推進し、2023年（令和5年）の事業完了を目指す。



公園西駅周辺土地区画整理事業 設計図

●(仮称)日進北部土地区画整理事業

- ・日進市の「北のエントランス拠点」として豊かな自然を継承しつつ、多様な都市機能が立地する拠点地区の形成を目指し、東口論議地区に「(仮称)日進北部土地区画整理事業」による市街地整備を行う。2018年(平成30年)に市街化区域に編入されたことから、今後は早期の区画整理組合設立に向けた検討を行う。

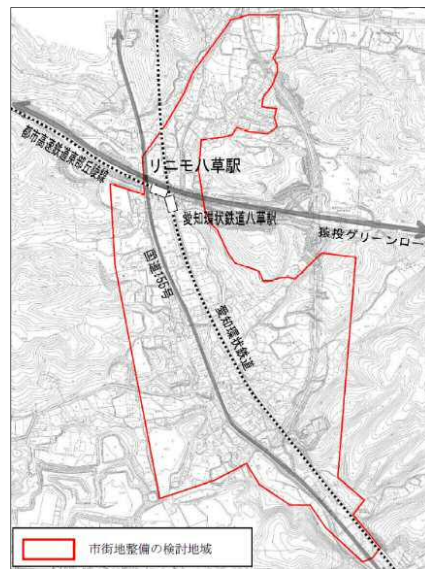
< (仮称)日進北部土地区画整理事業イメージパース >



●八草地区における市街地整備

- ・八草駅周辺においては、市街化区域に相応しいまちづくりに向けて、今後も地元組織を中心にまちづくりの方針について検討を進めていく。

< 八草地区における市街地整備の検討地域 >



【主要施策8】 駅周辺の都市機能充実

これまでリニモ沿線地域では駅周辺における都市機能の集約的な配置を図る集約型まちづくりを進めてきており、今後も長久手古戦場公園駅におけるリニモテラス構想の推進等により駅周辺の都市機能充実を図る。

また、藤が丘駅及び八草駅においては、ジブリパーク開業に伴い利用者の増加が想定されることから、リニモの玄関口としてふさわしいまちづくりについて検討を行う。



(駅周辺都市機能のさらなる充実)

●リニモテラス構想の推進

- ・長久手古戦場駅前に2021年(令和3年)に整備が予定されている「大学連携」、「観光交流」、「多文化共生」、「子育て支援」の4つをテーマとするリニモテラス公益施設やすでに整備が行われた駅前広場等で構成される「リニモテラス」構想を推進し、市民主体の取組を実施展開できる場を継続的に提供するとともに、市民の日常の暮らしを支え、訪れる人をもてなす空間を創出する。

<リニモテラスイメージ>



●古戦場公園の再整備

- ・「古戦場公園再整備基本計画」に基づき、本公園を「歴史の学びの場」、「体験の場」、「交流の場」の拠点とするため、古戦場野外活動施設の見直し等古戦場公園再整備事業を実施する。

<古戦場公園再整備イメージ>



●北のエントランス構想の推進

- ・日進市の「北のエントランス拠点」として、豊かな自然を継承しつつ、多様な都市機能が立地する拠点地区の形成を目指し、名古屋瀬戸道路の東西に広がる約27haのエリアを市街地整備する。
- ・長久手古戦場駅や芸大通駅、名古屋瀬戸道路長久手インターチェンジに近接するという交通利便性の高さを活かし、産業系の大街区を設定し、企業の立地を誘導する。

(まちづくりの推進)

●公園西駅周辺環境配慮型まちづくりの推進

- ・「公園西駅周辺土地地区画整理事業」において、「環境配慮型まちづくり基本構想」に基づき、香流川周辺の緑地整備工事に取り組み、環境配慮型基盤整備を実施する。

<環境配慮型まちづくりメニュー導入イメージ>



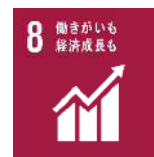
●交通結節点となる藤が丘、八草のまちづくりの推進

- ・「藤が丘まちづくり協議会」や「八草まちづくり推進委員会」を中心とした、観光客向けの地域情報発信やジブリパーク開業に向けた機運を地域全体で盛り上げていくための歓迎装飾による雰囲気作り等、リニモ沿線地域の玄関口としてふさわしいまちを目指した取組を促進する。
- ・「藤が丘まちづくり協議会」による今後のまちづくりの指針となる「藤が丘まちづくり基本構想」の作成に協力する。

【主要施策9】ICT等を活用したスマートシティの実現

今後のまちづくりにあたっては、都市が抱える諸課題に対してICT等の技術を活用しつつ、マネジメント（計画、整備、管理・運営等）が行われ、全体最適化が図られる持続可能なまちであるスマートシティへの取組が必要となっており、各地においてさまざまな取組が進められている。

リニモ沿線地域においてもICT等を活用し、MaaSや自動運転の社会実装に向けた取組を推進し、スマートシティの実現による持続可能な沿線地域を目指す。



(スマートシティの実現に向けた取組の推進)

●MaaS導入に向けた取組の推進

- ・ジブリパークの開業により多くの来訪者が想定されるリニモ沿線を含む名古屋東部丘陵地域を先導的に導入する地域として、「新たな生活様式」に対応した移動の実現に必要なサービスや、将来的に民間事業者による自立的な運営を可能とするためのビジネスモデルの検討等MaaS導入に向けた取組を推進する。
- ・また、尾三地区4市1町（日進市、長久手市、みよし市、豊明市、東郷町）全域を対象としたMaaSの導入について検討を行う。

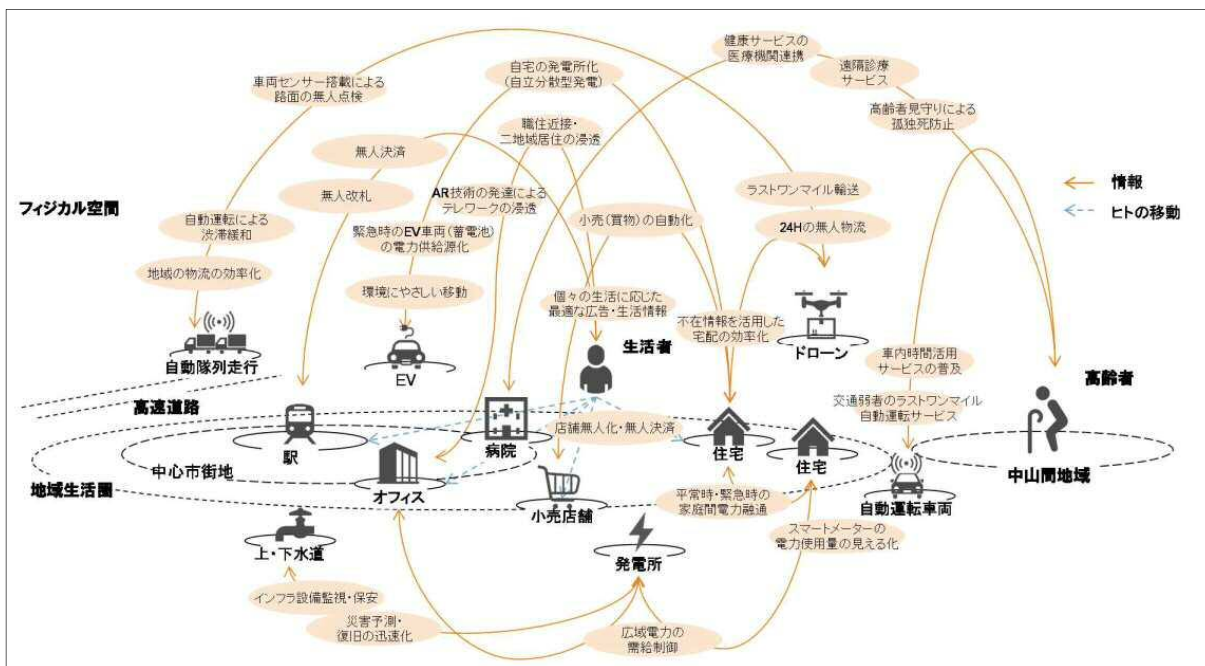
●自動運転の社会実装に向けた実証実験の推進(再掲)

- ・愛・地球博記念公園において、自動運転の実証実験を実施し、県内での将来的な自動運転の社会実装を目指す。
- ・名鉄米野木駅から愛・地球博記念公園間において、自動運転走行バスの実証実験を実施し、将来的には観光路線としての社会実装を目指す。

●今後のまちづくりにおけるICT等の活用

- ・スマートシティの実現に向け、例えばドローンでの配送による買い物支援、自動運転小型カートの導入、医療データに基づく健康アドバイスの配信、AIを活用したバス運行システムの導入等、ICT等の活用について検討し、持続可能な沿線地域を目指す。

<まちづくりに生かされる技術イメージ>



(出典：国土交通省)

【主要施策10】自然環境の適切な維持管理と農あるくらしの推進

愛・地球博の理念・成果を継承するため、リニモ沿線地域が有する「海上の森」をはじめとした豊かな自然環境の保全に向けて適切な維持管理を行うとともに、沿線地域の農業に適した土地を活用し、住民が農業と触れ合う「農あるくらし」を通じて環境保全、癒やし、健康福祉、交流教育等の推進を図る。

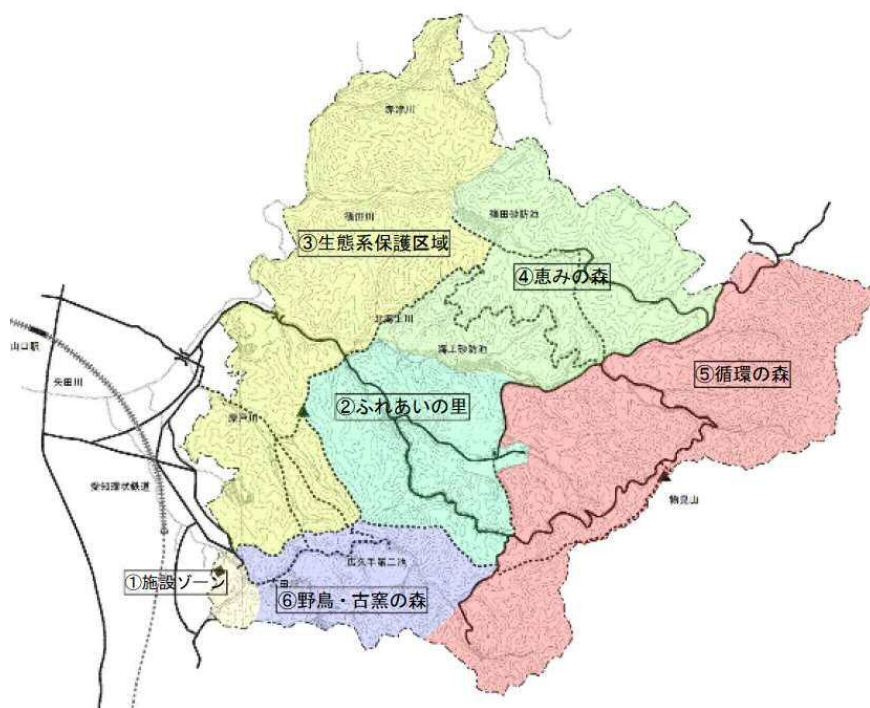


(里山の保全、生態系ネットワークの形成)

●海上の森の里山保全等

- ・「あいち海上の森条例」に基づき海上の森を愛知万博記念の森として将来にわたり保全し、住民が自然とふれあい交流する場として、さらには森林、農地、水辺地等における自然環境の適正な保全のための取組等を推進する場として活用していく。
- ・「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」により指定された「海上の森自然環境保全地域」におけるシデコブシ等の希少な植物に関し、除伐等による保全事業を行う。

<海上の森の地域区分と事業展開>



| 地域区分 | 事業展開例 |
|----------|-------------------------|
| ①施設ゾーン | 景観の保全整備・環境教育・情報提供・人材育成 |
| ②ふれあいの里 | 里山の保全活用・里山文化の学習・県民の参加交流 |
| ③生態系保護区域 | 自然環境・生物多様性の保全と学習 |
| ④恵みの森 | 広葉樹林等の保全技術の確立・森林環境教育の推進 |
| ⑤循環の森 | 人工林の育成・資源の活用・保全技術の確立 |
| ⑥野鳥・古窯の森 | 野鳥の保護・環境学習・歴史文化学習 |

●あいち森と緑づくり事業による里山林整備・都市緑化推進の支援

- ・「あいち森と緑づくり税」を活用した「あいち森と緑づくり事業」のうち「里山林整備事業」により、沿線市が地域住民やNPO等と協働で行う里山林の保全・活用に対する支援を行い、リニモ沿線地域の里山林保全活動を推進する。
- ・同じく「あいち森と緑づくり事業」のうち「都市緑化推進事業」により、沿線市が行う樹林地等の保全・創出、民有地緑化の補助、街路樹の植え替え、県民参加での緑化活動等の取組に対する支援を行い、リニモ沿線地域の都市緑化を推進する。

●東部丘陵生態系ネットワークの形成

- ・「東部丘陵生態系ネットワーク協議会」が実施する大学内等の特定外来生物の駆除による動植物の生息生育空間の保全・再生や生物多様性の保全に対する取組に対し「あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業交付金」による支援を行い、生態系ネットワークの形成を図る。



東部丘陵生態系ネットワーク協議会が実施する「あいち自然再生カレッジ」の様子

(農あるくらしの推進)

●(仮称)長久手アグリサポートセンター事業

- ・「長久手田園バレー基本計画」に基づき、「農あるくらし・農あるまち」の実現に向けて、農に関わる取組を応援する「(仮称)長久手アグリサポートセンター」を設立し、農地のマッチング等の運営支援を行う。

●瀬戸市上之山団地の市民菜園の運営

- ・上之山町団地内にある農園（80 区画、1 区画 35～49 m²）の市民への貸出を引き続き実施し、市民が野菜や花等の栽培を行うことにより農業と触れ合い、農業への理解を深めるきっかけとする。



上之山市民菜園の様子

●農業、農村の多面的機能の維持・向上の支援

- ・農業・農村の国土保全・水源かん養・景観形成等の多面的機能の維持・向上を図るため、多面的機能支払制度を活用した農地周辺の草刈りや水路の泥上げ等を行う地域の共同活動を支援する。

●県産木材の利用促進

- ・公共施設や住宅に加え民間商業施設においても県産木材利用の促進を図ることにより県産木材の地産地消を推進し、木材利用の魅力を広く発信する。
- ・ジブリパーク内における県産木材利用や市民活動により作製した県産木材によるベンチ等の設置について検討を行う。

【主要施策 1 1】豊かな自然を活かした地域づくりと脱炭素・循環型社会に向けた取組

住民が日常生活の中で、気軽に自然とふれ合い、人と自然の共生を感じることができるよう、リニモ沿線地域の豊かな自然資源（小河川、里山、保存樹等）を活かして、自然と触れ合いながら散策できる回遊性のある遊歩道等の整備を図り、歩きたくなる空間づくりに取り組む。

また、持続可能なまちづくりに向けて脱炭素社会及び循環型社会形成に向けた取組を推進する。



（香流川を活かしたまちづくり）

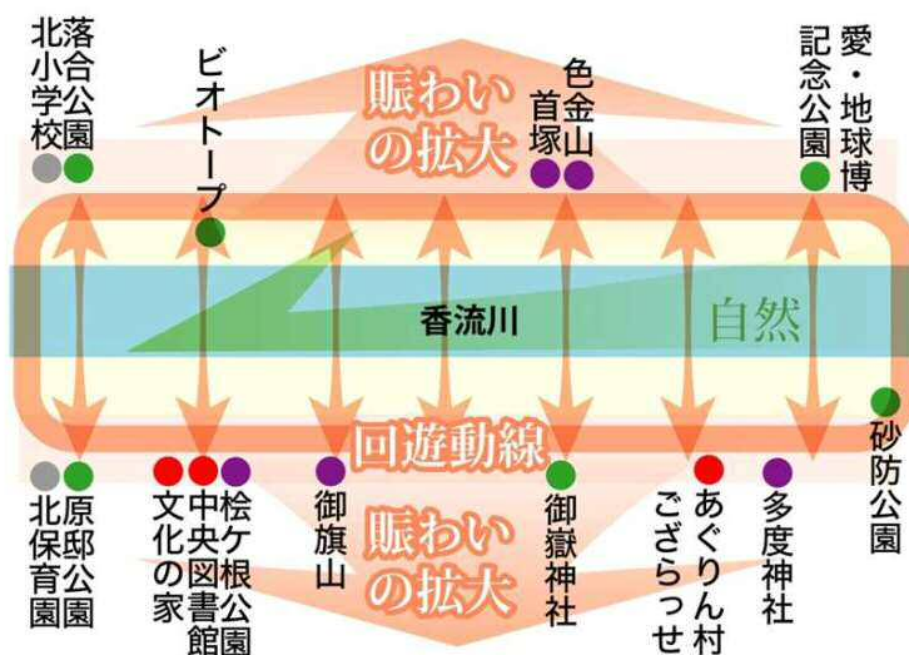
●香流川緑地の整備

- ・「香流川整備計画」により重点整備箇所とされている「公園西駅周辺」、「香流川中上流部」及び「岩作橋～前熊橋周辺」の整備に取り組み、「香流川を基軸として水と緑と人をつなぎ、にぎわいを創出する」香流川を活かしたまちづくりを進める。

●香流川緑地を中心とした歩きたくなる空間づくり

- ・香流川沿いにおける遊歩道整備、名古屋長久手線、岩作諸輪線、力石名古屋線の街路樹再整備、公園西駅南通り線の街路樹植栽を行い、「あえて歩いてみたくなるまち」の実現を目指す。

<香流川を中心とした回遊動線のイメージ>



(環境に配慮したまちづくりへの取組)

●公園西駅周辺環境配慮型まちづくりの推進(再掲)

- ・「公園西駅周辺土地区画整理事業」において、「環境配慮型まちづくり基本構想」に基づき、香流川周辺の緑地整備工事や再生可能エネルギーの地産地消に取り組み、環境配慮型基盤整備を実施する。

●脱炭素・循環型社会に向けた取組

- ・太陽光発電設備やZ E H、H E M S、エネファーム導入に対する支援による住宅の低炭素化や再生可能エネルギーの普及に加え、学校をはじめとした公共施設への緑のカーテン設置による地球温暖化防止に取り組むとともに、循環型社会の形成に向けてごみ・資源の収集・処理方法の適正化を図り、ごみの減量化・資源化を推進する。
- ・また、ジブリパークにおいてもプラスチック製品の不使用やごみのリサイクルの徹底等脱炭素社会及び循環型社会形成に向けた取組の導入について検討を行う。

重点戦略4 地域づくり活動の活性化

リノモ沿線地域においてはこれまで住民や沿線大学の学生等と協働したまちづくりを行ってきており、今後もこれらの活動を継続するとともに、長久手古戦場駅前に整備が予定されているリノモテラス公益施設を拠点とした住民、学生とのさらなる交流の促進や「地域共生ステーション」の整備、「地域スマイルポイント事業」の実施による市民活動の活性化に向けた環境づくりを行い、住民本位の地域づくり活動を推進する。

【主要施策12】沿線住民や沿線大学・学生と協働した地域づくり

リノモ沿線地域は周辺も含め9つの大学が立地し、また、若い世代の流入が比較的多い地域でもある。そうした特徴を活かし、若い世代を含めた幅広い世代の意見、沿線大学の知的資源、学生の視点・アイデアを活用し、住民や学生と協働した地域づくりを進める。



(沿線住民との協働による地域づくり)

●シンポジウムやワークショップの開催

- ・沿線住民の地域づくりへの参画を促すため、地域づくりに関する様々な知見（環境問題、防災、緑化、福祉、子育て等）を得る機会の提供及び人材の育成を目的としたワークショップやシンポジウムを開催する。

●藤が丘のまちづくり支援

- ・「藤が丘まちづくり協議会」においては、ジブリパーク開業をきっかけとした地域活性化や老朽化した集合住宅の建替え等を見据えた魅力的なまちづくりについて検討が行われる予定であり、協議会が進める「まちづくり基本構想」の作成等に協力する。また、専門家の派遣による助言や活動に対する助成等を行うことにより、地域主体のまちづくりを推進する。

●八草のまちづくり支援

- ・市街地整備に向けた検討を進めている八草駅周辺においては、これまで「八草まちづくり推進委員会」の活動を通じて、市街地整備についての意識醸成・合意形成を図りながらまちづくりを進めてきており、今後も本委員会を中心とした住民主体のまちづくりを推進する。

●リノモテラスを中心とした住民の交流

- ・2021年（令和3年）に長久手古戦場駅前に整備が予定されているリノモテラス公益施設において、「子育て支援」、「大学連携」、「多文化共生」、「観光交流」の4つのテーマを中心とした交流の場において、ワークショップの開催等により住民のさらなる交流を図るとともに、地域づくりへの参画を促す。

（沿線大学・学生との協働による地域づくり）

●沿線大学・学生との協働による市民講座、沿線活性化イベントの実施

- ・リノモ沿線地域では、沿線市と大学による連携協定の締結や大学内における地域連携センターの設置等をはじめとした地域連携の取組を行っており、引き続きこれらの取組を継続するとともに、大学・学生と協働し、これまでの取組の成果を活かした市民講座や沿線活性化イベントを行う。



愛知医科大学公開講座



ながくて環境フェアでの
愛知淑徳大学のブース出展



愛知県立芸術大学の学生と長久手市観光交流協会が協力して作成した「おうちデリシャス」

（出典：長久手市観光協会HP）

【主要施策 1 3】 市民活動の活性化

愛・地球博で培われた市民交流に対する高い意識による活発な市民活動に対する支援を継続するとともに、2021年（令和3年）に長久手古戦場駅前に整備されるリニモテラス公益施設を新たな交流拠点としてさらなる市民活動の活性化を図る。



（沿線施設等における市民活動支援）

●地球市民交流センターにおける市民活動の支援

- ・市民参加・市民協働・交流活動の拠点施設である「地球市民交流センター」において、環境や交流等をテーマとした体験学習プログラム、市民団体やNPO団体による参加体験型プログラムを実施する。



体験学習プログラムの様子

●愛・パークにおける市民活動の支援

- ・「市民参加」、「交流」、「自然との共生」を未来につなげていく交流拠点である「愛・パーク」において、市民による定期的な花壇の植え替えやバルーンアート・マジック等のイベントを実施し、市民団体の活動の場を提供する。



愛・パーク

●海上の森における市民活動等の支援等

- ・「海上の森」においては、NPO団体「海上の森の会」による「体験学習プログラム」や「自然観察会」を実施し、市民活動を支援するとともに、企業連携プロジェクトとして覚書を締結している企業による「企業の森づくり」及び「海上の森での企業連携プロジェクト」の活動を通じて森林整備や森林体験活動を実施する。



『海上の森』での企業連携プロジェクト

●リリモテラスにおける市民活動の支援

- ・2021年（令和3年）に長久手古戦場駅前に整備が予定されているリリモテラス公益施設において、「子育て支援」、「大学連携」、「多文化共生」、「観光交流」の4つのテーマを中心とした市民交流の場を提供し、市民活動を支援する。

＜リリモテラス公益施設に関する4つのテーマ＞



(市民活動の活性化に向けた環境づくり)

●ながくて地域スマイルポイント事業


- ・福祉施設等における奉仕活動等の市民活動に対しポイントを付与し、商品と交換することができる「ながくて地域スマイルポイント事業」を実施し、市民活動参加への促進を図る。

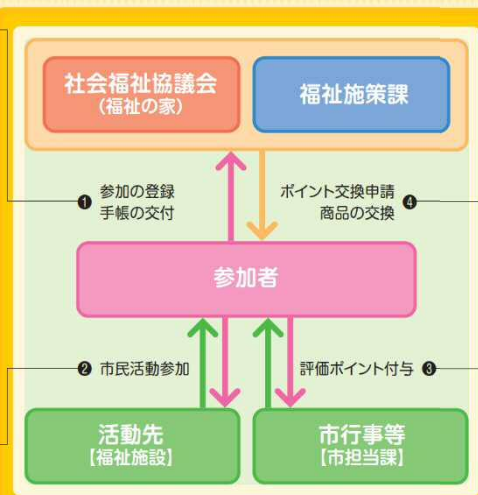
<ながくて地域スマイルポイント事業パンフレット>

ながくて地域スマイルポイント事業に参加しよう!

① 参加の登録をします

ながくて地域スマイルポイント事業登録申請書に記入し、市福祉施策課または社会福祉協議会(福祉の家)へ提出して手帳を受け取ってください。





④ 評価ポイントを交換品に換えることができます

ながくて地域スマイルポイント交換申出書に必要事項を記入し、市福祉施策課または社会福祉協議会に手帳を添えて提出してください。併せて、身分証明書(運転免許証、保険証等)を提示してください。

交換できるポイントは1年間で最大50スマイル(10,000円)までです。10スマイル貯める毎に交換品に換えることができます。


② 市民活動に参加します

福祉施設及び公共施設などでの奉仕活動や、市の主催する行事への協力などの市民活動に参加します。


福祉施設での活動の紹介は、社会福祉協議会までお問い合わせください。また、福祉施設で活動する場合、事前に活動先に連絡してください。

③ 手帳にスタンプをもらいます (評価ポイントの付与)

市民活動に参加したら、その都度、活動した施設や市担当課に手帳を提示し、確認のスタンプを押してもらいます。



※1時間程度の活動で1スマイル、1日2スマイルが上限です。
手帳の有効期限は発行日から1年間、評価ポイントの交換は発行日から2年間です。



3 効率的で快適な移動を可能にする「誰もが使いやすい交通の実現」

重点戦略5 効率的で利便性の高い交通体系の構築

リニモ沿線地域は広域的な交通ネットワークが形成された交通利便性の高い地域であるが、今後のさらなる交流人口の増加に対応するため、鉄軌道の乗り継ぎ改善や渋滞対策に取り組むとともに、MaaSや自動運転といった新たなモビリティサービスの提供やフィーダー交通のより一層の充実に向けた取組を推進し、効率的で快適な移動を実現する。

【主要施策14】公共交通の充実・利用促進

ジブリパーク開業に伴い、リニモ沿線地域への来訪者が増加することが想定されるため、交通アクセスの改善による交通利便性の向上を図るとともに、コミュニティバス等のフィーダー交通の充実に努め、地域住民の生活交通の確保に取り組む。



(交通利便性の向上)

●藤が丘駅、八草駅における円滑な乗り換えの実現

- ・藤が丘駅及び八草駅において、リニモと名古屋市営地下鉄及び愛知環状鉄道との乗り換えに関し、わかりやすい案内表示・サイン等の設置、混雑時における誘導及び需要に応じた運行ダイヤの検討を行う。

●ジブリパーク開業を契機とした藤が丘駅における環境整備

- ・名古屋市営地下鉄藤が丘駅では、2022年秋のジブリパーク開業に合わせてトイレの洋式化、内装の改修、ベビーチェアの整備等トイレのリニューアルを行う等、多くの利用者をお迎えする環境を整備する。
- ・また、「リニモス広場」の活用については、「藤が丘まちづくり協議会」とともに、そのあり方を再検証し、ターミナル駅にふさわしい広場空間の形成に向けて議論していく。

●リニモの安定的な輸送力確保に向けた運行体制の強化

- ・愛・地球博開催時に、大量輸送を実施するため、博覧会協会の負担により製造され、使用に供された車両1編成を譲り受け、運行可能な状態に再整備を行うことにより、リニモの安定的な輸送力確保に向けた運行体制の強化を図る。

●八草駅前パーク&ライド駐車場の運営

八草駅前パーク&ライド駐車場は2011年(平成23年)に拡張工事を行い、その後も引き続き利用者が増加してきており、さらなる利用増加に向けた利用促進を図る。

(フィーダー交通の充実)

●コミュニティバスの充実

- ・リノモ沿線地域ではこれまで各市の地域公共交通会議を通じて地域住民の生活交通の確保に向けた取組を行ってきた。今後も引き続き各市の地域公共交通会議において、交通利便性のさらなる向上にむけて、需要に応じた見直しを行い、コミュニティバスをはじめとしたフィーダー交通の充実を図っていく。
- ・また、交通結節点と地域の拠点施設相互を結び、地域間の交流・対流を促進する公共交通ネットワークの形成に向け、コミュニティバスの相互乗り入れ等の取組について検討を行う。

<沿線各市のコミュニティバス>



コミュニティバス (瀬戸市)



N-バス (長久手市)



くるりんばす (日進市)



おいでんバス (豊田市) ※写真は燃料電池バス

沿線市における最近の主な取組及び今後の予定

瀬戸市：2020年度にコミュニティバス車両の大型化を実施

豊田市：2019年度に燃料電池バス4台を導入

日進市：2020年9月までにコミュニティバス車両6台の車両更新を実施

長久手市：2018年から2019年にかけて定額乗合タクシー事業の実証実験実施

2021年にはコミュニティバス路線の再編を予定

(公共交通の利用促進)

●沿線住民や学生への公共交通利用促進

- ・沿線住民や学生に対し公共交通機関による通勤・通学方法の案内、意識啓発を行い、公共交通機関への利用転換を促すモビリティマネジメントを実施する。

●沿線施設や沿線イベントでの公共交通利用促進

- ・沿線施設や沿線イベントにおける公共交通機関の利用促進を図るため、リニモ来場者への特典付与の取組を継続するとともに、ジブリパークへのリニモ来場者に対する特典付与等について検討を行う。

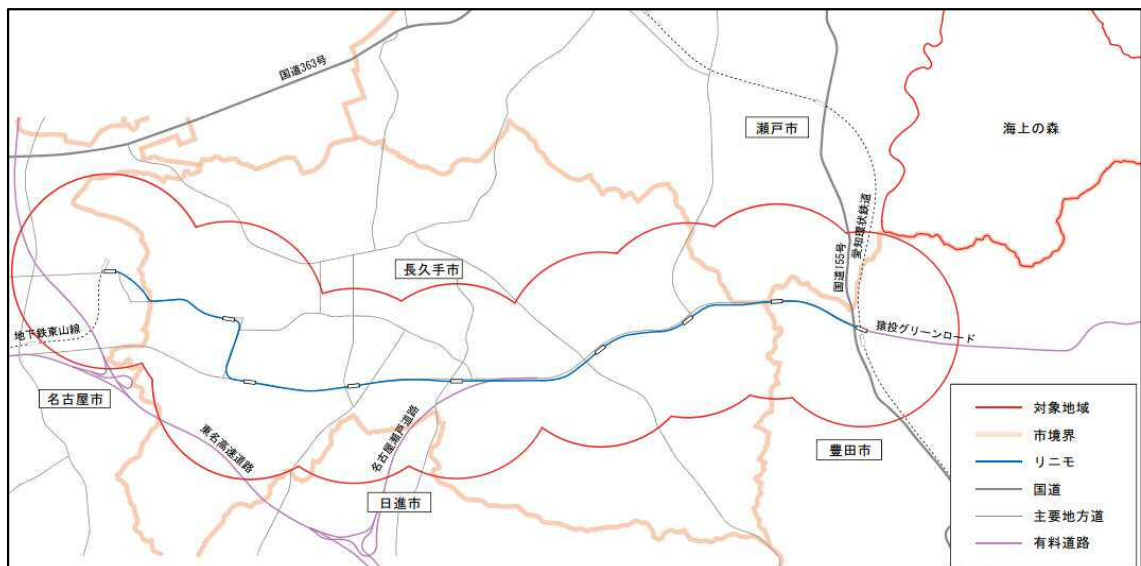
●ジブリ作品との連携による公共交通利用促進策の検討

- ・ジブリ作品のファンを新規利用者として取り込み、リニモをはじめとした公共交通の利用促進を図るため、ジブリ作品の世界観と調和した意匠やデザインに配慮した公共交通利用促進策の実施を検討する。

●リニモ沿線ウォーキングイベント、体験講座イベントの開催(再掲)

- ・リニモ沿線地域の文化・芸術・観光施設と連携したリニモ沿線ウォーキングイベント、沿線施設における体験講座イベントを開催することにより、リニモ沿線地域の魅力を感じてもらいながらにぎわいの創出やリニモの利用促進を図る。

<リニモ周辺地域の主要交通>



【主要施策15】 道路交通網の形成及び愛・地球博記念公園周辺道路の渋滞対策

愛・地球博を契機に、東海環状自動車道や名古屋瀬戸道路等の自動車専用道路が整備されるなど、リニモ沿線地域への交通アクセスは飛躍的に向上した。今後も沿線地域と周辺地域を結ぶ幹線道路の整備を進めるとともに、ジブリパークの開業による交通量の増加への対応に取り組む。

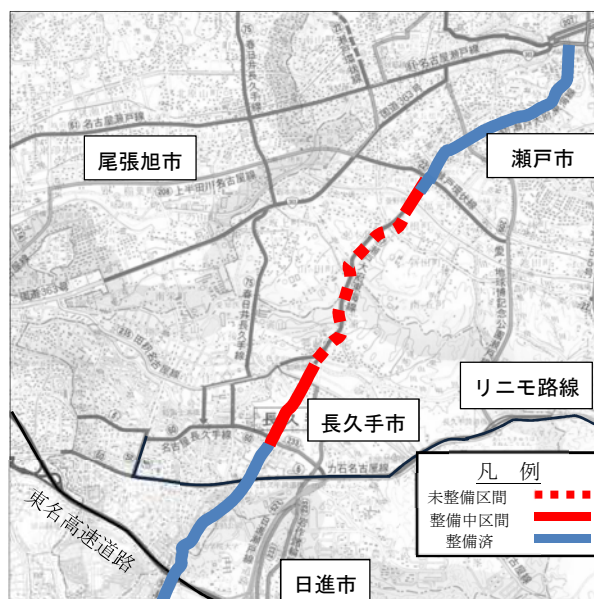


(計画的な道路整備)

● 県道瀬戸大府東海線の整備

- ・リニモ沿線地域を東西につなぐ県道力石名古屋線と接続する県道瀬戸大府東海線の整備を推進し、名古屋東部から南部における環状機能強化を図る。

< 県道瀬戸大府東海線の整備予定図 >



(ジブリパーク開業に向けた渋滞対策)

● 愛・地球博記念公園周辺道路の渋滞対策

- ・近年の大型商業施設の開業に加え、2022年(令和4年)秋のジブリパークの開業が予定されていることから、愛・地球博記念公園周辺道路の渋滞対策として県道力石名古屋線及び県道田柵名古屋線の改良工事、愛・地球博記念公園北側における駐車場の増設を行う。

【主要施策16】新たなモビリティサービスの実現による移動の円滑化

近年、MaaSや自動運転といった新たなモビリティサービスの社会実装に向けた取組が各地で実施されており、リニモ沿線地域においてもこれらのサービスの社会実装に向けた取組を推進することにより効率的で快適な移動を可能にし、誰もが使いやすい交通を実現する。



(新たなモビリティサービスの導入)

●MaaS導入に向けた取組の推進(再掲)

- ・ジブリパークの開業により多くの来訪者が想定されるリニモ沿線を含む名古屋東部丘陵地域を先導的に導入する地域として、「新たな生活様式」に対応した移動の実現に必要なサービスや、将来的に民間事業者による自立的な運営を可能とするためのビジネスモデルの検討等MaaS導入に向けた取組を推進する。
- ・また、尾三地区4市1町（日進市、長久手市、みよし市、豊明市、東郷町）全域を対象としたMaaSの導入について検討を行う。

●自動運転の社会実装に向けた実証実験の推進(再掲)

- ・愛・地球博記念公園において、自動運転の実証実験を実施し、県内での将来的な自動運転の社会実装を目指す。
- ・名鉄米野木駅から愛・地球博記念公園間において、自動運転走行バスの実証実験を実施し、将来的には観光路線としての社会実装を目指す。

●公共交通を補完する新たな輸送サービスの推進

- ・地域住民のラストワンマイルや観光客向けの新たなモビリティとしての活用が期待されているグリーンスローモビリティをはじめ、超小型電気自動車や電動自転車のシェアリング等既存の公共交通を補完する新たな輸送サービスについてリニモ沿線地域での実現可能性を調査・検討する。

4 主要施策とSDGsの17の目標

| 主要施策 | 2 飢餓をゼロに | 4 質の高い教育をみんなに | 7 持続可能なエネルギー | 8 働きがいのある人間らしい経済 | 9 産業・イノベーションの創出 | 10 人や国を超えた公正さ | 11 住み続けられるまちづくりを | 12 つながる消費 | 13 気候変動と持続可能な開発 | 15 陸の豊かさを保つ | 17 パートナーシップで目標を達成しよう |
|----------------------------------|--|--|--|--|---|-------------------|--------------------------------------|----------------------|---------------------------|--|---|
| | 飢餓に終符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する | すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する | すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する | すべての人々のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産の完全雇用およびディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事)を推進する | 強靱(レジリエント)なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、イノベーションの拡大を図る | 国内および国家間の不平等を是正する | 都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱(レジリエント)かつ持続可能にする | 持続可能な消費と生産のパターンを確保する | 気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る | 陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る | 持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化させる |
| ①ジブリパークの整備とパークを核としたぎわいの創出 | | | | ● | | | | | | ● | |
| ②ホスピタリティに溢れたおもてなし体制の整備 | | | | ● | | ● | | | | | |
| ③地域資源の活用による魅力向上 | | ● | | ● | | | | | | ● | ● |
| ④広域連携による観光の推進 | | | | ● | | | | | | | ● |
| ⑤次世代産業のさらなる振興に向けた人材育成、企業育成 | | ● | | ● | ● | | | | | | |
| ⑥先端研究開発や実証研究の推進 | ● | | ● | ● | ● | | | | | | |
| ⑦駅を中心とした概ね1km圏内の計画的な市街地整備の推進 | | | | ● | ● | | ● | | | | |
| ⑧駅周辺の都市機能充実 | | | | ● | ● | | ● | | | | |
| ⑨ICT等を活用したスマートシティの実現 | | | | ● | ● | | | | | | |
| ⑩自然環境の適切な維持管理と農あるくらしの推進 | ● | | | | | | | | | ● | |
| ⑪豊かな自然を活かした地域づくりと脱炭素・循環型社会に向けた取組 | | | ● | | | | | ● | ● | ● | |
| ⑫沿線住民や沿線大学・学生と協働した地域づくり | | ● | | ● | | | | | | | ● |
| ⑬市民活動の活性化 | | ● | | ● | | | | | | ● | ● |
| ⑭公共交通の充実・利用促進 | | | | ● | | | ● | | | | |
| ⑮道路交通網の形成及び愛・地球博記念公園周辺道路の渋滞対策 | | | | ● | ● | | ● | | | | |
| ⑯新たなモビリティサービスの実現による移動の円滑化 | | | | ● | ● | | ● | | | | |

參考資料

- 1 策定体制
- 2 策定過程